

「高精度測位技術を活用した公共交通システムの高度化に関する技術開発」の今後の事業の方向性について

平成28年3月14日

1. 高精度測位技術の公共交通システムへの適用に係る技術開発

公共交通システムに高精度の位置測位技術を適用し、信頼性の高い位置情報の取得を可能とするための技術開発

今年度の事業の結果概要

○一定の環境下(一社一路線)においては、新車載器は既存車載器に比べ、測位の成功率や測位精度が向上し、高精度な車両運行情報の把握が可能。

来年度事業の方向性

○様々な環境下で昨年度と同様の精度が得られることを検討するため、来年度は以下の事業を実施することについて検討中。

- ・今年度と異なる測位環境や今年度より厳しい測位環境等において実証実験を行い、新車載器と既存車載器の測位成功率・測位精度を比較検証・評価、課題を整理

2. 乗継ぎ円滑化等に資する情報提供等に係る技術開発

交通結節点における乗継ぎ円滑化等に資する一元的な情報提供等を可能とするための技術開発

今年度の事業の結果概要

○目的地までの円滑なバス利用に係る情報提供のうち駅付近の案内所等からバス停への案内について、ビーコンと写真を活用する方式は、特定のケースにおいては有効。

来年度事業の方向性

○シームレスな案内については、別途歩行者移動支援に関する各種プロジェクトや民間における取り組みが深化していることから、それらの活用を期待。

○高精度・リアルタイムな運行情報等を一元的に提供する仕組みの構築については、以下を踏まえつつ、来年度事業の実施内容を検討。

- ・リアルタイムな高精度の運行データの活用拡大によるバス等の公共交通の利便性向上・利用者拡大を指向。
- ・1. に関する今年度の実証実験での結果から、一定の環境下において「高精度」・「高確率」でバス運行情報を把握できることが確認できた。
- ・リアルタイムでの高精度測位技術の活用のためには、これらに加え「高頻度」での運行情報の把握が不可欠と考えられる。(データの圧縮、通信コストの低減なども課題。)
- ・既存システムを運用する運行事業者側に大きなコストやリスクを生じさせないような運行情報提供の仕組みが必要。